

イングリッシュ・サイエンスキャンプ

期 日 平成 31 年 3 月 9 日 (土) ・ 10 日 (日)
場 所 富山中部高等学校
ふれあいの里ささみね、山田交流促進センター
参加者 本校第 1 学年生徒 32 名
指導者 富山大学大学院生・研究員
富山中部高等学校 物理・化学・生物・英語科教諭・A L T 等

3 月 9 日 (土) ・ 10 日 (日) の 2 日間にわたって行われたイングリッシュ・サイエンスキャンプに、本校 1 年生 32 名が熱い気持ちを持って参加しました。

開会式では、本校の中村教頭先生より激励のことばをいただきました。特に「君たちはまだ失敗してもよい時期である。諦めずに挑戦してほしい。」という言葉が印象に残っています。そして、ここからオールイングリッシュのサイエンスキャンプがスタートしました。

アイスブレイキングに続き、本校 A L T のハナ先生の講義では、ペットボトルと風船を使って綿で作った玉を遠くまで飛ばすという実験をグループごとに競い合いました。5 メートル近くも綿球を飛ばし、見事 1 位を獲得した班に成功の秘訣を聞いたところ、「玉をうまく回転させて空気抵抗を押さえられるように工夫した」ということでした。この競技では玉の工夫が勝敗の大きな分かれ目となったようです。



午後からは、サイエンスキャンプの醍醐味である物理・化学・生物の 3 分野に分かれ、英語を使って実験を行いました。実験は、海外出身の富山大学の大学院生や研究員の主導で、使い慣れない英語の専門用語を用いながらグループで協力し合って実験を進めました。講義と実験は 1 分野 90 分と長いものでしたが、ほとんどの生徒は時間を忘れて、実験に取り組んでいました。



その後、研究結果の発表場所となる宿泊施設ふれあいの里ささみねに移動し、隣接する山田交流促進センターで、翌日のポスター発表にむけて、準備に取り組みました。



2 日目は、朝食後すぐに発表の最終準備にとりかかりました。英語での発表原稿やポスターを仕上げたり、発表のリハーサルをしたりしました。なかには「昨夜 1 時まで発表の考察や内容を考えていた」と話す生徒もいました。この生徒だけではありませんが、参加生徒はみな英語での発表に全力を注ぎました。考察内容について、講師の先生に積極的に英語で質問をしました。

発表会では、発表も質問も英語でしなければならないという条件の中で、日頃の英語の授業などで身につけた英語力を存分に発揮し、素晴らしい発表を行いました。ジェスチャーを使ってわかりやすく伝えようとしている生徒もいれば、内容をほとんど把握し参加者に笑顔で伝えようとする生徒もいました。参加者からも多くの質問が飛び交い、英語で応答することで、英語力を鍛えるいい機会になりました。

キャンプ最後の昼食時には、自然と英語で会話ができるようになっており、2 日間という短い期間でありながらも個々の英語力の向上を感じることができました。

